



明治大学大学院 研究科間共通科目

2026年度4月

A large, irregular pink brushstroke graphic that serves as a background for the main title text.

コンセプト 学問領域と国境を越えて

喫緊の社会的要請に応えるため、大学院学生が国際的な学術世界へとたどり着けるための実践的な技能、及び多様な概念や問題意識を整理し、新たな知を創造し、社会の抱える課題を解決していく学際的な能力を涵養すること

科目群

国際系科目群

学際系科目群

**キャリアパス
関連科目群**

**数理データサイエンス
人工知能科目群**

科目一覧

授業科目	単位数		備考
	講義	演習	
国際系科目群			
学術英語コミュニケーション	2		メディア授業科目併設
英文学術論文研究方法論	2		メディア授業科目併設
国際系総合研究A	2		メディア授業科目
国際系総合研究B	2		メディア授業科目
国際系総合研究C	2		メディア授業科目
国際系総合研究D	2		メディア授業科目
学際系科目群			
学際系総合研究A	2		メディア授業科目
学際系総合研究B	2		メディア授業科目
学際系総合研究C	2		メディア授業科目
学際系総合研究D	2		メディア授業科目
キャリアパス関連科目群			
ジョブ型研究インターンシップ	2		
キャリアパス支援科目	2		
数理データサイエンス人工知能科目群			
人文・社会科学データ解析	2		メディア授業科目
自然科学データ解析	2		メディア授業科目
データサイエンス演習		2	メディア授業科目

国際系科目群（英語系科目）

『英語で書かれた文献が読めない』『国際学会での発表があるけど不安』『修士論文や学術論文を英語で書きたいが、どうしたらいいのかわからない』などの悩みを抱える方へオススメの科目です。

親切な教員とアットホームな雰囲気の中、英文文献の読み方のコツ、英語が下手でも通じる学会発表のやり方、英語の独特な論旨の展開方法などを学習します。

授業は全部英語なので自然にリスニングも上達します。フルオンラインの授業と一部対面の授業と、履修者の希望に応じて開講しています（対面の授業があるクラスでは、対面の発表練習も可能です）。

まだ具体的なプランはなくても、漠然と留学に興味がある方や、将来はなんとなく海外で活躍してみたいけれども、英語が苦手という方も歓迎します。

国際系科目群（英語系科目）

学術英語コミュニケーション（2単位）

[修得を目指すスキル] Speaking & Listening Skills

[履修定員] 20名※

英文学術論文研究方法論（2単位）

[修得を目指すスキル] Reading (Academic Journals)& Writing Skills

[履修定員] 10名※

※英語力向上の観点から、各クラスに履修者数の上限を設けています。

※継続的に英語を使い英語能力を向上させるため、同一科目であっても各学期1コマを上限として複数回の受講を認めます。

（ただし、修了要件への算入については、研究科により取扱いが異なります。）

国際系・学際系科目群（総合科目）

国際系総合研究A～D（2単位） ※開講科目は年度によって異なる

学際系総合研究A～D（2単位） ※開講科目は年度によって異なる

国際的・学際的な能力の養成を目的とし、各研究科担当の専任教員によるコーディネートのもと、当該分野で活躍しているスペシャリストによる講義が行われます。なお、授業はすべてフルオンラインで実施されます。

国際系・学際系科目群（総合科目）

国際系総合研究A「Fundamentals of Western Art History（西欧美術史の基礎）」【秋学期】

コーディネーター

山口不二夫（グローバル・ビジネス研究科専任教授）

講師

小笠原美果（（財）政治経済研究所 研究員）

授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）

＜授業概要 Course Summary＞

In this class, we will be lecturing on the history of art from ancient Egypt to the 19th century. This is an ambitious attempt, and there is a lot to gain. We will be studying not only paintings, but also architecture and sculpture. The aim is to understand the distinctive features of each era through art. Students will also learn about the techniques and materials used in the creation of works of art. Our goal is to understand how art has reflected the political and social trends, religious systems and technological developments of the time. As a result, we can identify the following three points.

The lessons are basically presented using Power-Point. After that, we watch a 20-minute video of the work we have studied using PowerPoint. We will study art history, while also learning about the politics, economics and technological innovations of the time, and considering the relationship between these things and fine art.

＜到達目標 Objectives＞

1. Deepen your education as an international-minded person
2. Learn what innovation has done to the development of fine arts
3. Find idea sources for marketing and advertising

この授業はメディア授業です。英語で行われますが、理解を確実にするために、適宜日本語の解説や要約も加えます。

芸術は自然とともにビジネスや学問の創造性の源泉です。本講義では西洋美術の歴史を、①社会や政治で果たした役割、②各時代の技術との関わりを考慮しながら、学びます。14回と回数に限られていますがエジプト、ギリシア美術から可能なら後期印象派・現代美術までを扱います。その時代の状況、芸術家の生涯、彫刻と絵画、建築の解説を行います。時間が許せば、20分程度英語のビデオを鑑賞します。海外でビジネスや交渉のあとで、互いの文化について英語で語り合えることを目標にしています。

オンライン(Zoom)のアカウントは近づきましたら、お知らせいたします。成績評価はレポート 課題のオンライン提出によります。

国際系・学際系科目群（総合科目）

学際系総合研究B「里山の未来を拓く」【春学期】

コーディネーター	岩崎泰永（農学部 専任教授）
講師	倉本 宣（農学部 専任教授） 森本信生（尖塚の自然と歴史の会） 内田 圭（東京都市大学環境学部 准教授） 山田 晋（東京農業大学農学部 教授） 富田啓介（里山湿地研究所 代表） 小林 誠（十日町市立里山科学館 学芸員） 奥 敬一（富山大学 専任教授）

※肩書は2026年3月現在

授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）

生物多様性が高いことで注目されるようになった里山の概念は、1990年前後に普及し、関西を中心に瞬く間に全国に普及した。当初は、雑木林（平地林）という生態系を指すことが多かったものの、広義には農家という人手の入った生態系の複合体（生態学のレベルでは、ランドスケープ＝景観）としても使用されるようになり、わずか30年後の現在では高校生も知っている概念となった。

現代日本の里山は、生物多様性と持続可能性が高いことで評価されているものの、人手の源であった農家の激減と、それを引き継いだ里山ボランティアの高齢化と人数の減少によって危機的な状況にある。一方で、多摩・三浦丘陵群などの先進的な地域では、里山ガバナンスに専門性を持った市民が参画する動きも見え始めている。

そこで、7名の里山をアカデミックに研究してきた講師による里山学の構築を目指した授業を企画した。里山概念を通して、空間的、時間的に、地球を見ると、日本だけでなく、世界の多くの場所に人手の入った生物多様性の高い景観が存在し、我が国においては近世だけでなくもっと古い時代に遡ることがわかってきた。江戸時代から1950年代までの里山は持続的であったものの、農家による利用が行われなくなった1960年代から里山は変化して、主木のコナラなどは大径木となって、大径木に集まるカシノナガキクイムシのマスアタックを招くようになった。15年程度で皆伐更新する薪炭林であれば、樹木は小さく、ナラ枯れは起こらないので、里山を使う仕組みと経済を再構築していく必要がある。里山の数百年間の歴史をふりかえることを通して、未来の里山のあり方を見出すことを目標とする。

キャリアパス関連科目群

大学院生の修了後の進路については、大学等での研究者を目指すアカデミア以外にも、産業界における高度専門職等にもキャリアパスが拡大しています。

将来の多様なキャリアパスを推進することを目的に、特に産業界と連携した以下の科目を展開しています。

ジョブ型研究インターンシップ^o（2単位）

博士後期課程の学生を対象とし、企業の研究所等において2か月以上（※）にわたり有給（初任給程度）で先端的な研究プロジェクトや業務をインターンシップとして取り組み、研究力に裏打ちされた実践力を養成します。

（※）受入企業・団体と相談のうえ勤務スケジュールが設定されるケースが多い。例：週3日で2か月間、週3日+リモート勤務 等

キャリアパス支援科目「産学連携型キャリア支援講座」（2単位）

産業界を代表する企業の協力のもと、ビジネスや技術の動向等に関するレクチャーを受けながら、企業におけるリアルな課題をベースにした企画提案や課題解決等プロジェクトの疑似体験を積み(PBL)、また企業人講師からの実践的なフィードバックも受けられる講座です。¹⁰

数理データサイエンス人工知能科目群

プログラム特設ページのリンク



本科目群の授業科目単位修得を前提とした明治大学独自の認証制度である『大学院数理データサイエンス人工知能プログラム』を開始しました。

デジタル技術による社会変革が急速に進む現在社会において、データサイエンスや人工知能に関する知識・技術を適切に理解し、習得することは、自らの専門分野の研究へ活用することだけでなく、専門分野の垣根を越えた領域横断的な社会的課題の解決においても、非常に重要です。

文系・理系及び各自の前提知識やスキル、必要性に応じた各科目を展開しています。

人文・社会科学データ解析（2単位）

文系博士前期課程の学生を主対象とし、データサイエンスリテラシーを中心とした文系高校数学レベルの知識で受講できる講義です。パソコン操作に慣れることから始め、データ分析手法を学びながら、結果の理解を導きます。

自然科学データ解析（2単位）

自然現象の特徴を捉えるためのデータ分析の考え方と手法について、一部ハンズオン形式のプログラミングも取り入れて講義します。可視化や統計分析といった自然科学を支える基盤的手法に加え、機械学習・人工知能の科学における活用についても扱います。

データサイエンス演習（2単位）

実践的な課題や実データを題材にしたデータ収集・分析、課題解決を通じて実践的スキルの習得を目指す「プロジェクト学習型」の演習科目です。

数理データサイエンス人工知能プログラム データサイエンスコンペティション

昨年度、大学院数理データサイエンス人工知能プログラムの一環として、明治大学大学院において学ぶ大学院生や学部生が、学問分野を超えて交流し、互いの専門性を高め合う場を提供することを目的として開催しました。

2025年度実施テーマ

「データサイエンスアプローチによる、地球規模環境変化の中でよりよい生活を目指す提案」をせよ！

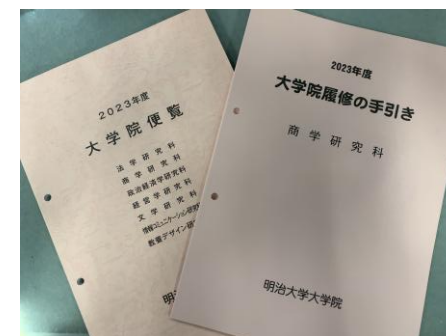
2026年度も実施予定！

詳細はOh-o!Meijiにてお知らせします。



履修における注意点

履修・修了要件への算入については、研究科により取扱いが異なりますので、必ず所属研究科の大学院便覧や履修の手引き・学位取得のためのガイドライン等にてご確認ください。



また、授業や履修登録は大学院のスケジュールで実施されますので、**専門職大学院の学生はご注意ください。**

HP情報（担当教員・シラバス・時間割等）



https://www.meiji.ac.jp/dai_in/crossing/common.html